

やらう、今ひつくり返すぞ……それどうぢや、身があるやらう(同じ方ばかり見せる)ソレどうや  
 「何を吐かしてけつかる阿呆んだら、同じ方ばかり見せてやがる、其の鯛かて魚屋で腐つたん、貰  
 ふてきやがつたんやらう」ナンヂヤテ、こんな鯛を腐つてると、コラ今朝魚喜ヨロシと持つて来た、  
 其鯛を一枚パリ／＼と鱗を吹かして、鹽をばら／＼と振つて、ツーツと焼いた、生きよいのえ、  
 鯛やで、ピン／＼跳ね返つて居たのぢや」其の鯛も魚屋に節季まで錢を待つて貰ふて節季にぼんとひ  
 くのやらう」何を吐かしてけつかるね 汝と同じやうに思ふてやがる、今朝ほど現金で拂ふたんぢや  
 「それは御きんとうさんです」阿呆よ……一寸見なはれ堤の上の奴お辭儀をしよつた、お辭儀したさ  
 かに船の方が勝ちや、今度は船の方が勝ちや」阿呆やなアあんたは、そないに踊りなはん、踊つ  
 たよつてに折角勝つてゐるのにまた負けやがなア」なんでやね」そやがな、あいつが云ふてるがな、片  
 假名のトの字のチヨボが踊つてゐるもうて笑ふてるがな」片假名のトの字のチヨボてなんや」私が背が  
 高いのに、あんたが背が低い、そやよつてにあんたをトの字のチヨボやと云ふねん」オホ、……  
 あたいその小さい云はれたら、一番癪にさはるねん、わたい是でもゆつくり六寸着るがな」六寸着た  
 らそんなら一人前やがな、三尺六寸かいな」二尺六寸や……」やつぱり子供やがな、此の人は……さ  
 う云ふたんなア、あの堤の奴は餘り小さい奴やない、至つて大きい奴や、大きな者に碌なもんあれ  
 へん、大男總身に智慧が廻り兼ね、大は小を兼ねると云へども箆筒長持は大きうても枕にやならぬ、牛  
 は大きいでも鼠よう捕らんわいつて、江戸の淺草の觀音さんは、お身丈け一寸八分でも十八間四面の  
 御堂へ這入つてござる、仁王さんは大きうても門番ぢやい、山椒は小粒でもヒリリと辛いわい、ち

うたれ」云ふたら……ヤイコラ堤の奴」イヨ一舟の中の小さいのん、又出たなア、あんまり首を出し  
 て川の中へはまつたら、こまんどこやに啞へて行かれるぞ」なんかしやがるね」小さいのん、物を云  
 ふのんなら、立つて云ふてくれ」イヤア……是で立てるわい」いらん事を云ひな、座つてると云ひな  
 はれ」コラ小さい／＼と饒別すな」饒別やない輕蔑やがな」そのべつちやい」そないに、すばらな  
 奴があるかいなア」ヤイコラ座つてゐるやぞ——ナア、小さい／＼と云ふない、大きいものに剛い  
 もんがあるかい」イヤ妙な事を聞くなア大きい者に剛い者は無いか、昔唐土に漢羽に光明と云ふ人は  
 八尺からあつた、其の漢羽や光明は阿呆かい」ソヤ／＼せいだい唐の本を見て講釋しなはれ」コレ泣  
 いてんと云ふたれ、大男總身に智慧が廻り兼ねと云ふたれ」コラ大男總身に智慧が廻り兼ねと云ふわい、  
 大は小を兼ねといへど、箆筒長持は嫁入り道具ぢや」そら當りまへやがな、仕様がないなア此の男は  
 枕にならぬや」枕にならぬわい、箆箱にかて」そんなよけいな事云はいでもえい」牛は大けてもモ  
 ウーとなくわい」鼠を捕らぬや」そや鼠を捕らぬわい、馬かて象かて虎かて」何を云ふてるのや」江  
 戸のどさくさ」違ふ／＼どさくさやない、淺草や」江戸の深草」深草やあらへん淺草や」深草なら少  
 將の間違ひや」そんな二輪加して居んと、淺草やちうのに」はしたら江戸の淺草の觀音さんは、お身  
 丈け十八間四面でも、一寸八分のお堂へ……」そんな所へ這入れるかいな、あべこべやがなア」是れ  
 はアベコベや」何吐かす確り云へ」仁王さんは大けいけれど、門番してるわい」さう／＼」門番で  
 喰へぬよつて、草鞋作つて賣つて居るが、じぶんの足に合すもんやさかいに、大けて誰も買ふ人が  
 ない」そんな餘計な事を云はいでもよい」コラ山椒はなア、山椒はヒリリと辛いわい」コラ教へて貰